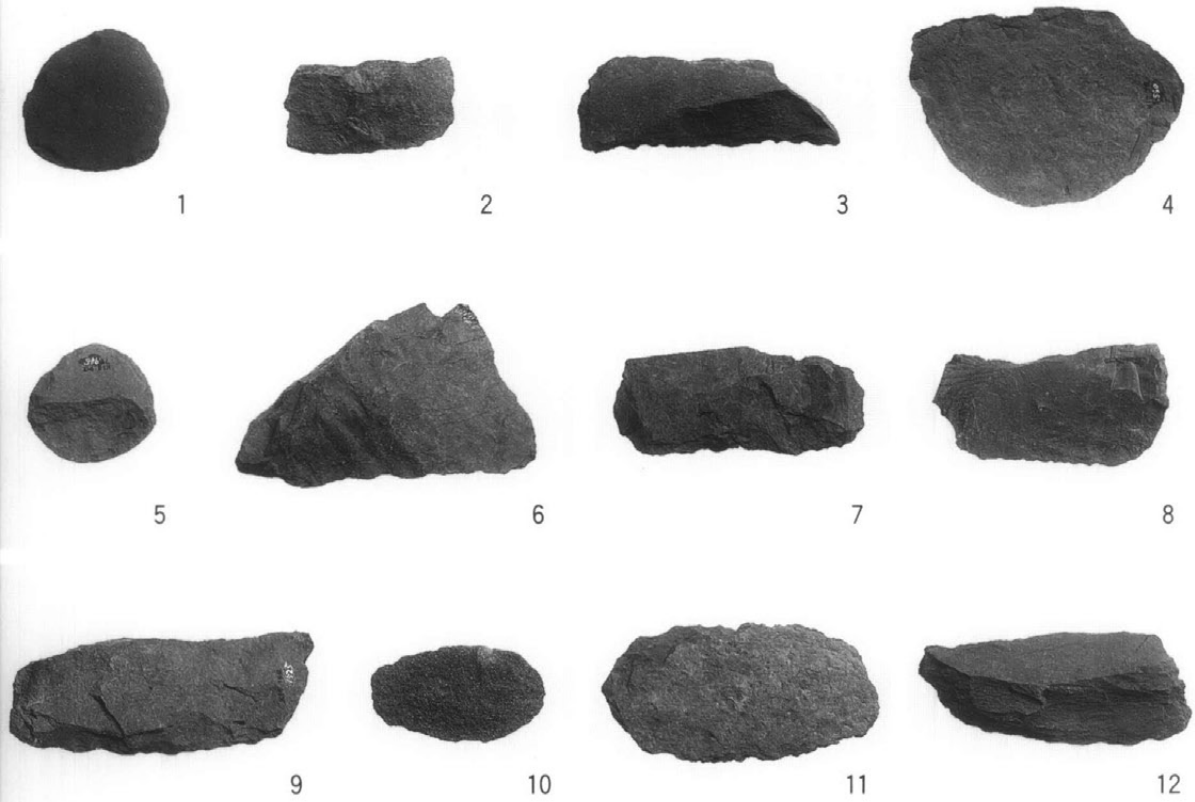
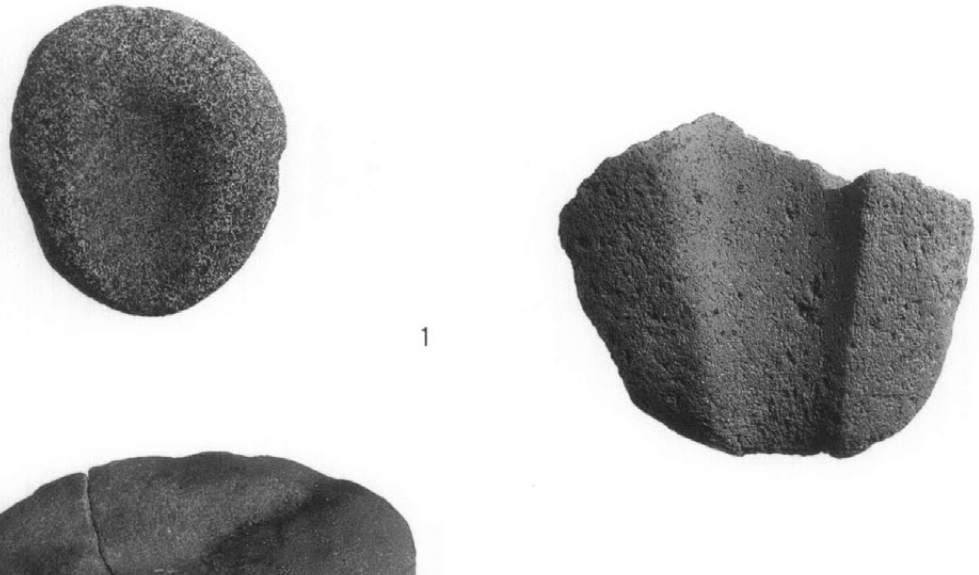
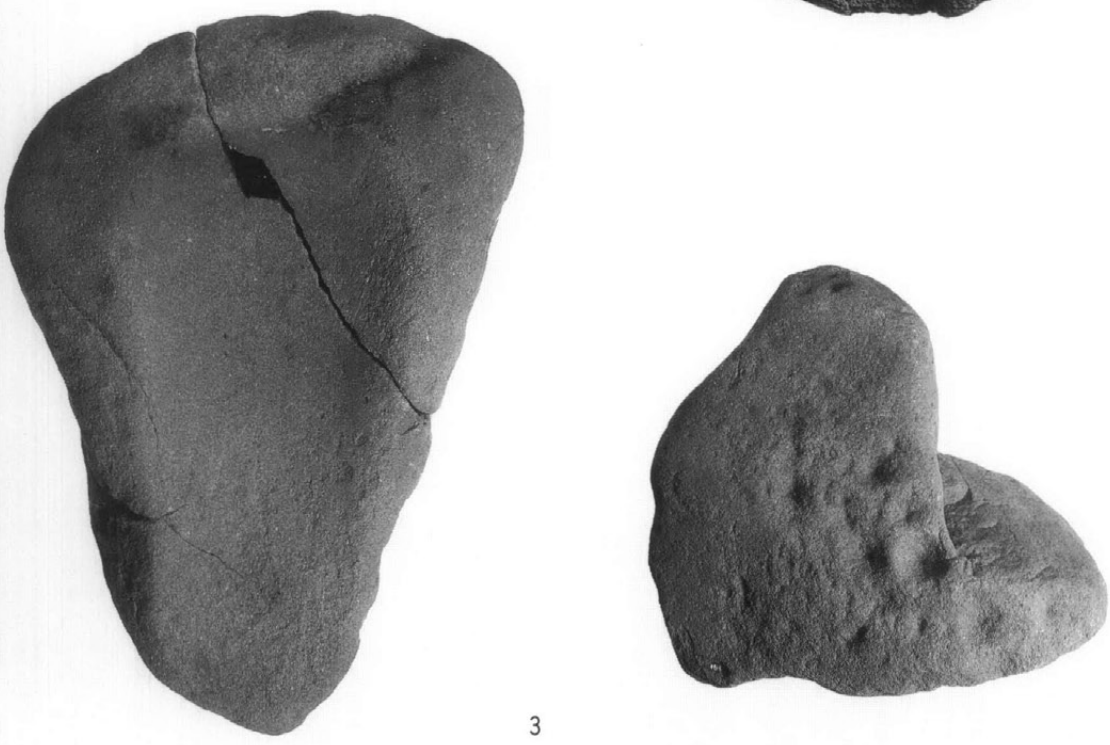


大形刃器
(S≒1/3)
1　3住1
2　6住15
3　7住14
4　9住13
5　9住20
6　9住21
7　9住24
8　18住5
9　18住6
10　18住7
11　25住1
12　25住2



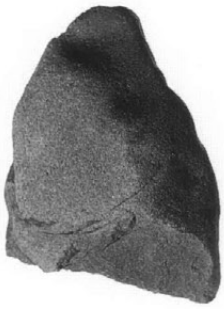
石皿
(S≒1/6)
1　6住26
2　6住25
3　19住14



多凹石
(S≒1/6)
1　5住13

砥石
（S≒1/4）
1　5住12

1



1

台石
（S≒1/4）
1　7住21
2　9住29
3　9住30
4　9住31
5　20住18
6　21住17

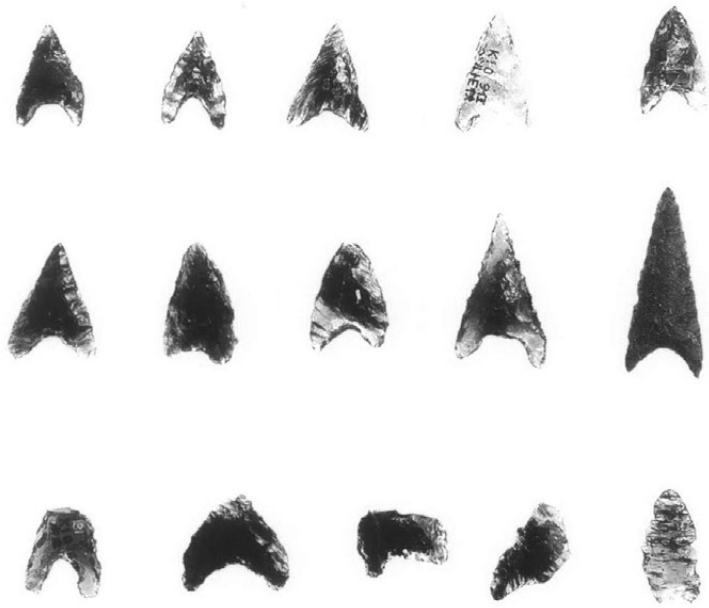
2

3

4

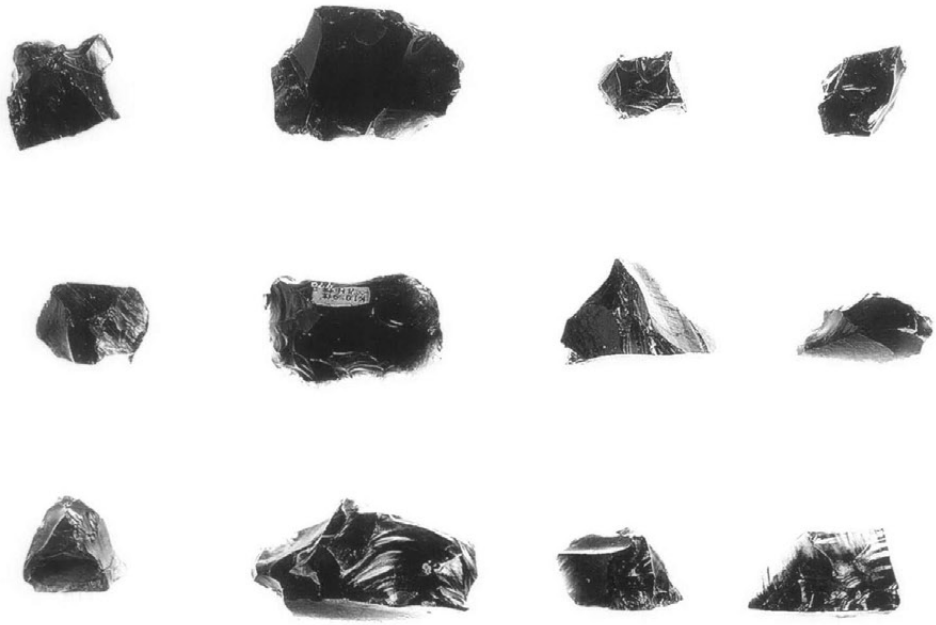
5

6



石鏃
（S＝1/1.5）

石錐
（S＝1/1.5）



石核
（S＝1/2）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	くまくぼいせき
書　　名	熊久保遺跡
副 書 名	第10次発掘調査報告書
シリーズ名	朝日村文化財調査報告書
シリーズ番号	第１集
編 著 者 名	樋口　昇一　　今村　克　　小口　英一郎　　上條　信彦　　小口　達志
編 集 機 関	朝日村教育委員会
所　在　地	〒390-1104　長野県東筑摩郡朝日村大字古見　　TEL 0263-99-2004
発行年月日	西暦　2003年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くまくぼいせき 熊久保遺跡	ながのけんひがしちくまぐん 長野県東筑摩郡 あさひむらおおあざこみ 朝日村大字古見 1320ばんち番地	20451	3	36°07′10″	137°52′23″	2000.0929 ～ 2000.1215	1,000m²	朝日美術館建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
熊久保	集落跡	縄文時代 中期	竪穴住居址 31軒 土坑　　40基	縄文時代中期の土器・石器・土製品	縄文時代中期の人面装飾付土器、梨久保Ｂ式土器の一括資料が出土した。

ABSTRACT

Book title	KUMAKUBO SITE
Sub-title	Report of the 10th Archaeological Investigations
Volume number	
Serial name	Report of cultural asset Investigations, Asahi village
Serial number	Serial number 1
Editors	HIGUCHI Shoichi, IMAMURA Katsu, OGUCHI Eiichiro, KAMIJO Nobuhiko, OGUCHI Tatsushi
Editorial organization	c/o Asahi Villageship Board of Education
Location of the organization	Komi, Asahi village, higashichikuma county, Nagano Pref. 390-1104, Japan Phone (81) 263 99 2004
The date of issue	31 March 2003

Site name	Location	Code		N.L.	E.L.	Duration of Excavation	Excavated areas	Cause of Excavations
		City	Site					
Kumakubo site	1320 Komi, Asahi village, higashichikuma county, Nagano Pref. 390-1104, Japan	20451	3	36°07′10″	137°52′23″	29/9/2000 ～ 15/12/2000	1,000m²	Constructi-ons of asahi civic museum

Site name	Site kind	period	Major features	Major artifacts	remarks
Kumaku-bo	settlement (temporary campsite)	Middle of Jomon period	31 pit dwellings, pits, building with pillars embedded directly into the ground	potteries, stone tools, cray figures of middle of Jomon period	The human face pattern on the middle of Jomon period pottery, Nashikubo B type potteries, Kumakubo type potteries excavated.

あ と が き

約40年前、熊久保遺跡の第１次調査に携わったころはまだ30歳代の血気盛んな青年教師だった。松本深志・松本県ヶ丘・桔梗ヶ原（現塩尻志学館）・木曽西（現木曽）各高校のクラブ員と地元有志の方々が、春浅い３月下旬の冬期休暇を利用し発掘に従事した。この調査の契機を作っていただいた地主曽根八百人さん、地質・地形学や歴史・民俗にも造詣が深い地元郷土史家のリーダー三村邦雄先生、発掘事務や宿泊全般を手配していただいた当時の朝日中学校教頭横山正先生、それに発掘までの手続を御配慮いただいた一志茂樹・原嘉藤両先生、発掘調査の中心となられた深志高校の藤沢宗平先生と日本民俗資料館の小松虔先生などなど、この熊久保遺跡を今日あらしめた方々はすでにいない。年齢を重ねただけの私一人が、新進気鋭の学究の力を借りて、ここに朝日村初めての報告書刊行事業に参加する喜びもあるが、まず先記した諸先学に感謝申し上げねばなるまい。勿論、第１次調査以後第10次に及ぶ調査に当って、諸般の準備から実施までを担当された村教育委員会の皆々様の御尽力に対しても心からお礼申し上げたい。わけても、第２次から第５次調査の間、教委の事務を担当された斉藤修策先生の並々ならぬ御苦労は記録に残さねばならないだろう。村財政逼迫の折、発掘すれど整理はせずというなか、先生は数年間にわたって明治大学の考古学専攻生有志を募り、夏休みの数日間を整理作業にあてる予算措置を講じていただいた。本場信州の縄文土器の整理ということで窮乏合宿に参加された学生諸君は、いま全国各地で活躍している。学生諸君に感謝すると共に斉藤先生の御努力に報るためにもこの報告書を立派に完成しなければという想いは強かった。実は本報告書の推進力となった小口英一郎君はその学生の一人だったし、大学の先輩藤森英二・小口達志両君もその整理・発掘作業の中心人物であり、本書刊行を陰で支えてくれた仲間でもある。

さて、本書の編集を終ってみるとまだ～欲が出てくる。確かに小口君による縄文中期土器の詳細な分析は、近年県内では潤沢な予算と十分な期間・人材に恵まれた㈶長野県埋蔵文化財センター発行の沢山の報告書にも負けない内容で、県内市町村刊行の報告書の中にあって特別な意義をもつと自負している。(報告書作成の最終段階は全くのボランティアであったにもかかわらず)。その小口君にしても念願だった「熊久保土器」の提唱に本格的論攷を予定していたが、諸般の事情で実現できず、後日稿を新たにして発表という点は、本人はもとより我々にとっても残念であった。院生ながら石器を分担してくれた上条君、他市町村の発掘調査とかけ持ちして主に図・写真の作成に当たってくれた今村君にもう少し時間と費用があったらと申しわけないが、心から感謝したい。

更に今回は、単なる発掘調査に終らず、熊久保遺跡を総合的にとらえるという小口君のたっての要望もあり、特に理化学的分野の専門家にも加わっていただいた。お忙しい中、原稿を執筆いただいた水沢教子、望月明彦、パリノ・サーヴェイ㈱各氏に末筆ながらお礼申し上げる次第である。

ただ本書の中で残念なのは、遺物はさておき、遺構の記述―とりわけその発掘経過に十分な記述ができなかった点である。報告書出版費用限定内の頁数でおさめるためには、相当の頁数をさかなければならなくなり、やや遺物偏重の内容となった点は私の責任であり深く反省している。御了承願いたい。

最後に当り、本書刊行の基礎を作っていただいた前教育長清澤勝男氏、無理難題を押し付けるのに約束の期日を守らない我々と、当局との板挟みに苦しみながら、事務方全般を背負っていただいた上條恵子さんに満腔の謝意を申し上げたい。深謝多謝。

平成15年３月

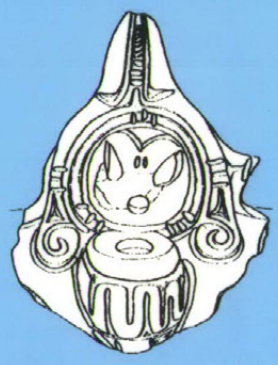
調査団長　樋　口　昇　一

長野県東筑摩郡朝日村文化財調査報告書第１集
熊久保遺跡第10次発掘調査報告書
—松本平西山山麓における縄文時代中期の集落址—

発　行　平成15(2003)年３月31日
発行者　〒390－1100
長野県東筑摩郡朝日村大字古見
朝日村教育委員会
TEL　0263－99－2004
印　刷　信毎書籍印刷株式会社

Nagano, Kumakubo Site

Report of the 10th Archaeogical Investigations



2003. 3

Asahi Villageship Board of Education

Report of the 10th Archaeological Investigations